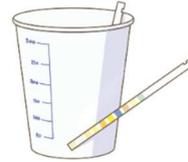


～ 尿検査について ～



尿には、体内で不要となった老廃物をはじめ、さまざまな物質が含まれています。

疾病により本来尿中には含まれないものが現れてくるため、それらを検査することにより、体内の情報を得ることが出来ます。

健康診断で行なっている尿検査は、体に負担をかけることなく行うことのできる非侵襲的な検査です。

1. 尿蛋白

尿中に蛋白が含まれていないか調べます。

通常は腎臓で吸収されますが、腎機能障害などで陽性となります。発熱や妊娠・激しい運動後などに一時的に陽性となる場合もあります。

2. 尿糖

尿中に糖が含まれていないか調べます。

糖尿病のように血糖値が高くないすぎたときに、尿中に糖が検出される場合と、腎臓の機能低下することにより尿中に糖が検出される場合があります。それ以外にもストレスや他の疾患により尿糖が陽性を呈することがあります。

3. 尿潜血

尿に血が混ざっていないか調べます。

腎臓から尿管、膀胱、尿道にかけての出血の有無をみています。膀胱炎などの炎症や腎腫瘍などによる出血があります。

4. 尿ウロビリノーゲン(ウロビリノーゲン)

尿中のウロビリノーゲンの有無を調べます。

健常人でも微量のウロビリノーゲンが検出されますが、量が多いと肝障害などを疑います。

5.尿pH

尿のPHを調べます。

通常尿は弱酸性(5.0~6.0)です。食物や運動の影響を受けやすく、生活習慣によって大きく変動します。一般的に動物性食品多量摂取で酸性に、植物性食品多量摂取でアルカリ性に傾くとされています。下痢や嘔吐などによる栄養状態や尿路感染などの影響も受けます。